

森林管理署長等が語る！

令和3年9月

埼玉森林管理事務所長 伊藤武徳

## ○ はじめに

当所は、埼玉県の西部に位置する秩父市、ときがわ町及び毛呂山町の1市2町に存する約1万2千haの国有林を管理しています。埼玉森林計画区の森林面積12万haの10%に当たります。

国有林の大半が、群馬県・長野県・山梨県・東京都との都県境にあり、日本百名山である雲取山（2,017m）や甲武信ヶ岳（2,475m）など2千メートル級の山々が連なる秩父山地です。その80%以上が「秩父多摩甲斐国立公園」に指定されていて、素晴らしい景観を有するとともに豊かな森林生態系が維持されています。

さらに、この地域は荒川やその支流の源流部に位置していることから、東京都をはじめとする首都圏の水源地としても重要な役割を果たしています。

また、令和元年6月19日には、当所管内を含む4都県（埼玉県、東京都、山梨県、長野県）12町村に広がる「甲武信」エリアが国内10番目のユネスコパークとして登録しました。古来より



雲取山山頂



甲武信ヶ岳山頂

守り育まれた豊かな自然と生活様式を未来に紡いでいけるよう、地域における環境の保全と地域資源の持続可能な活用を図るための活動を推進しています。今年6月には、当地域内における適切な標識の配置やデザインの統一化等を図ることにより、利用者の安全と利便性を確保するとともに、秩序ある風致景観を維持・形成することを目的に「甲武信ユネスコパークにおける公共標識のガイドライン」が設けられました。歩行者を対象とした案内、誘導のための標識等の整備を進めていくこととなっています。

## ○ 秩父地域の紹介

秩父地域は、かつて産業として石灰石によるセメント工業の中心をなしていました。シンボルとしてそびえる「武甲山」や秩父山地などの山と、その山地を水源とする荒川などの川が織りなす自然に恵まれた景観があります。また、神社仏閣、秩父往還等の街道沿いに形成された宿場町、近現代の織物産業やセメント産業の名残が残る建物といった歴史的景観が残されています。

秩父地域の主な史跡観光地等としては、およそ2,000年の歴史があり秩父の総社として宗敬を集め、荘厳で美しいたたずまいの「秩父神社」、日本武尊の創建と伝えられ、博物館や植物園なども境内にある「三峯神社」、火災盗難よけ・諸難よけとしての御神徳が高く、関東一円から年間100万人訪れる「宝登山神社」の秩父3社があります。それらは、関東屈指のパワースポットとして絶大な人気を誇ります。

さらに、鎌倉時代の開創とされる「秩父札所観音霊場」は、坂東三十三ヶ所、西国三十三ヶ所とともに、日本百番観音に数えられており、静寂な山村と美しい自然の風光を背景した一巡100km程の巡礼道となっています。



三峯神社の三ツ鳥居

## ○ 主な取組事項

主な業務としては、森林整備事業、造林事業、治山事業、林道事業等となりますが、ここでは特徴的な取組について紹介させていただきます。

### (1) 民国連携の取組

当所が管理する国有林の約99%を有する秩父市と隣接する4町は、地域の森林の有効活用を通じ健全な森林の育成と地域経済の発展させることを目的に、「秩父地域森林林業活性化協議会」（以下、協議会）を組織し、地域の林業振興を図るために、啓発事業、ちちぶ木の駅プロジェクト、森林活用等創出支援事業、森林環境譲与税活動推進事業及び集約化推進事業に取り組んでいます。

特に、集約化推進事業については、昨年度は意向調査（5区域：1,492ha）を実施し、集積計画（2区域：38ha）が作成されるとともに、経営管理実施権の設定を受ける民間事業者の選定が行われ、今年度からは、意向調査、集積計画の作成に加え、経営管理推進事業による間伐が本格的に進められており、集約化推進事業に係る予算を前年度比約4倍を計上して取り組んでいます。

当所では、この協議会に参画し、各事業を積極的に支援したり、イベントを共同開催するなど、地域の林業振興のために民国一体となって取り組んでいるところです。

具体的な取組としては、集約化推進事業を進めていく中で、今後、数年間続く意向調査、集約化団地の検討等がスムーズに行われるように、ドローンの活用について支援していきます。

効率的に林況の把握する手段として、ドローンの自動飛行により得られたオルソ画像データをQGISにより解析する方法や、そのための知識の習得に係る指導、ドローンの自動飛行の技術向上のための指導を行って



所職員によるドローンの操作指導



います。

また、秩父地域の木材業・森林・林業の普及啓発を目的として春と秋に実施する木が香る秩父フェスティバルへの共同参加や、自然の素材を使い森林の恵みの素晴らしさを実感していただくため、クリスマスリース作りを開催しています。



木の香る秩父フェスティバルの一コマ

このほか、補助金による間伐実施後の完了検査について、ドローンの自動飛行により得られた林地のオルソ画像をもとに、検査の簡略化・効率化ができないかと秩父市から最近相談がありました。これに対して、民有林地内においてドローンを飛ばし試験的に調査を実施するとともに、飛行技術の向上の指導も行うなどの支援を行っています。

## (2) 森林教室等による森林・林業のPR

当所では、森林の働きや森林整備の必要性を理解し森林にもっと関心を持っていただくため、毎年、ときがわ町内の小学生を対象に森林教室を開催しています。今年は6月29日に明覚小学校6年生22名を対象に、火起こし体験やドローン飛行の実演もメニューに加え実施しました。



若手職員講師による森林教室

また、秩父市内の中学校で実施している職場体験チャレンジ事業として、中学生を毎年受け入れています。今年度も2校から受け入れる予定でしたが、1校はコロナ感染予防対策のため中止となりました。もう1校は11月に当所の概要や森林の働



火起こし体験の様子

きについて講義を行うほか、シカ保護ネットの設置、測量、収穫調査、除伐作業などを実際に体験させ、子供達に森林・林業について理解を深めてもらう予定です。

## ○ おわりに

日本の森林は、戦後植えられ整備された人工林が利用期を迎えています。この人工林を積極的に利用し林業の成長産業化を進めていく取組が行われている中で、国有林では、公益重視の管理経営を一層重視しつつ林業の成長産業化に貢献すべく様々な取組を進めています。

当所としても、森林施業の低コスト化、シカ被害対策等に係る低コスト化や効果的な対策、それらに関する現地検討会等を開催し、新たな技術の民有林への普及啓発を図っています。森林・林業・木材産業の発展に少しでも貢献できるよう取り組んでいくことが必要であると考えています。

今後においても、引き続き地域の要請に応じた様々な課題に取り組みつつ、国有林の適切な維持・管理を図ってまいります。